



2024年度第2四半期(中間期) 決算説明資料



今日を支え 明日を創る

株式会社 四電五

(東証プライム市場:1939)

2024年11月

- I 2024年度第2四半期(中間期)実績
- II 2024年度業績予想修正
- III 配当予想修正(増配)
- IV トピックス

I 2024年度第2四半期(中間期)実績

II 2024年度業績予想修正

III 配当予想修正(増配)

IV トピックス

事業環境

- 設備投資や公共投資に持ち直しの動きが続くなど受注環境は概ね良好
- 資機材価格の上昇や人手不足など、受注判断や工事原価、工事進捗への影響に留意が必要な状況

当社グループの業績

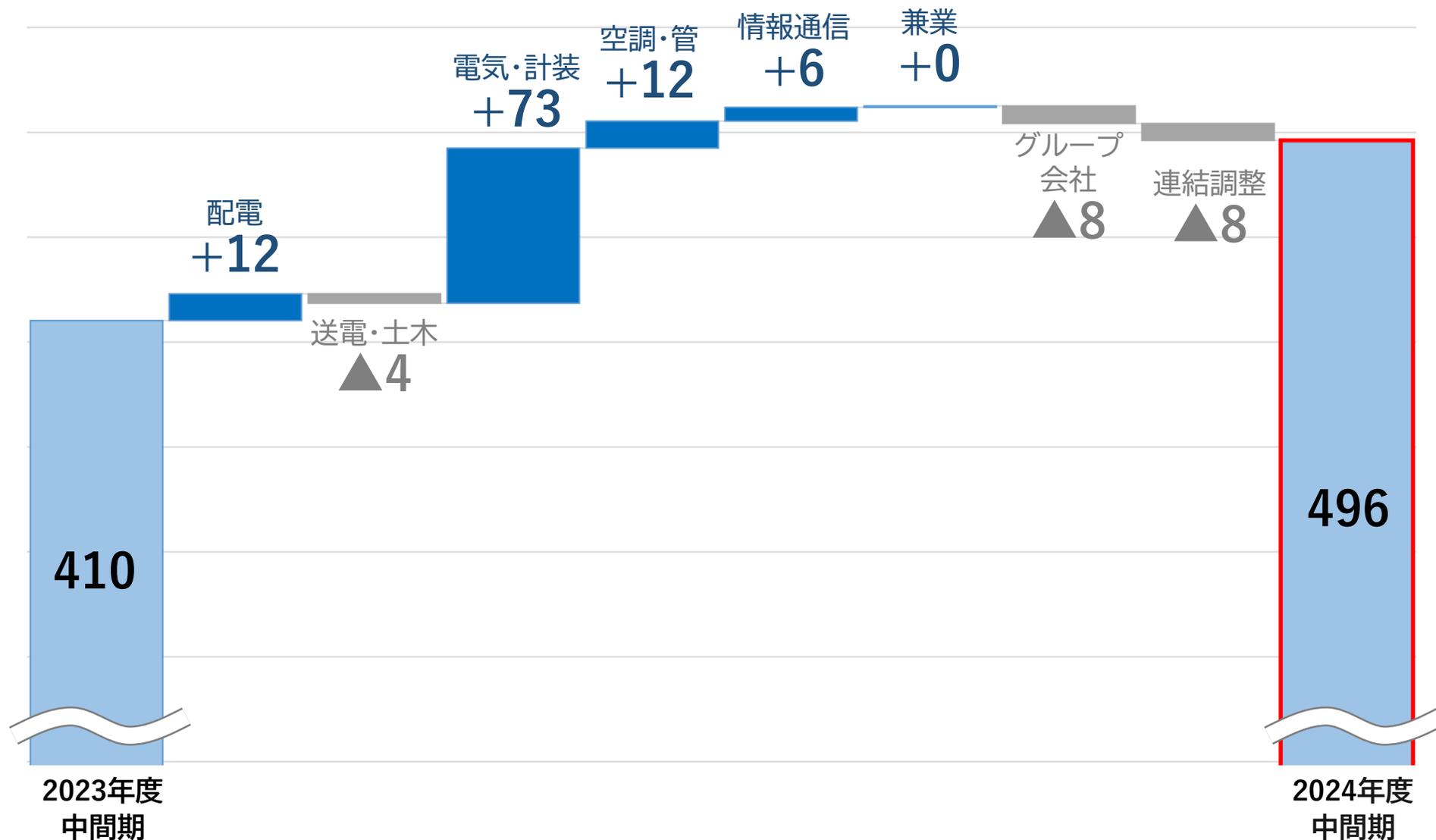
- 高水準の受注高を確保(過去2番目)
- 売上高・各利益は過去最高
 - 堅調な工事進捗や資機材の安定調達、徹底した原価管理が寄与

	2023年度 中間期	2024年度 中間期	前年同期比
(億円)			
受注高	541	521	▲20
売上高	410	496	+85
営業利益	30	45	+15
経常利益	32	47	+15
親会社株主に帰属する 中間純利益※	21	27	+6

売上高増減要因(連結)

I 2024年度第2四半期(中間期)実績

(億円)



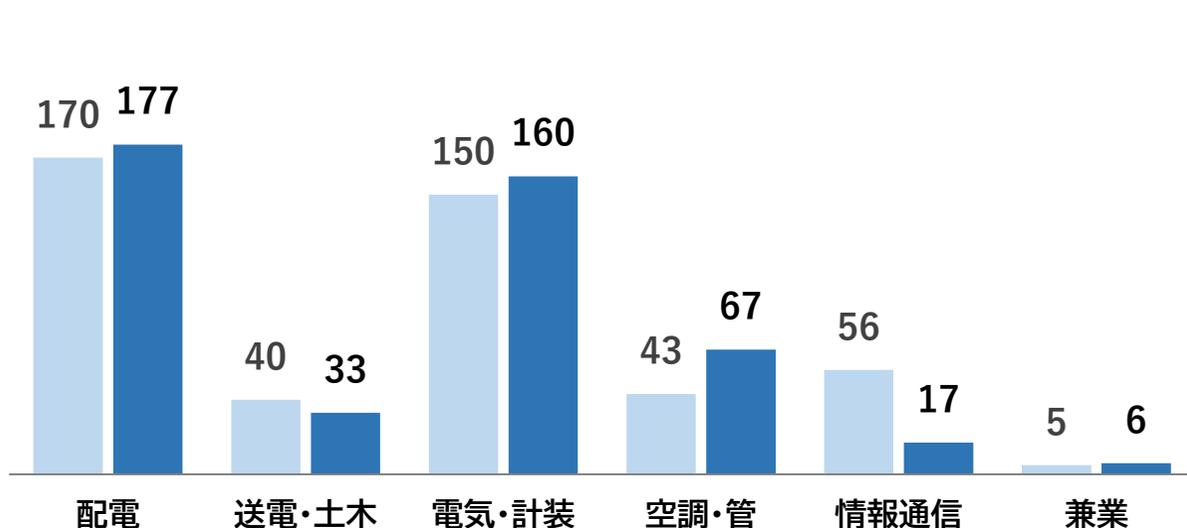
受注高は、462億円であり、前年同期比▲5億円減。

▶前年同期に複数大型物件を受注した反動減によるが、高い水準を維持

(億円)	2023年度 中間期	2024年度 中間期	前年同期比
受注高	468	462	▲5

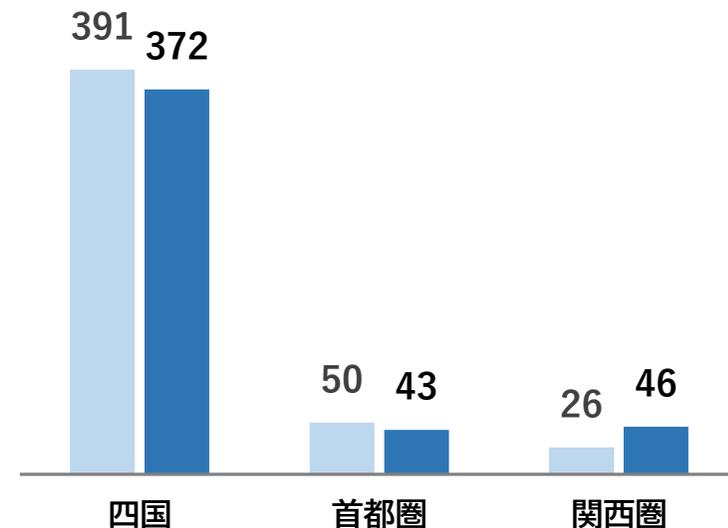
工事種類別受注高

■ 2023年度 中間 ■ 2024年度 中間



地域別受注高

(億円) ■ 2023年度 中間 ■ 2024年度 中間 (億円)



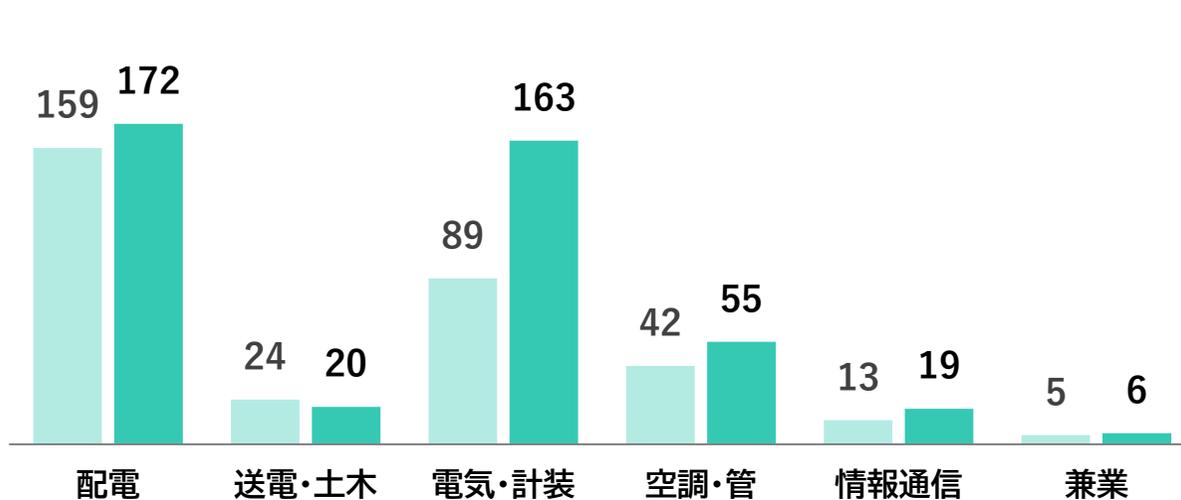
売上高は、437億円であり、前年同期比+102億円増。

➤資機材の安定調達やきめ細かな工程管理などにより、大型工事の進捗が堅調

(億円)	2023年度 中間期	2024年度 中間期	前年同期比
売上高	335	437	+102

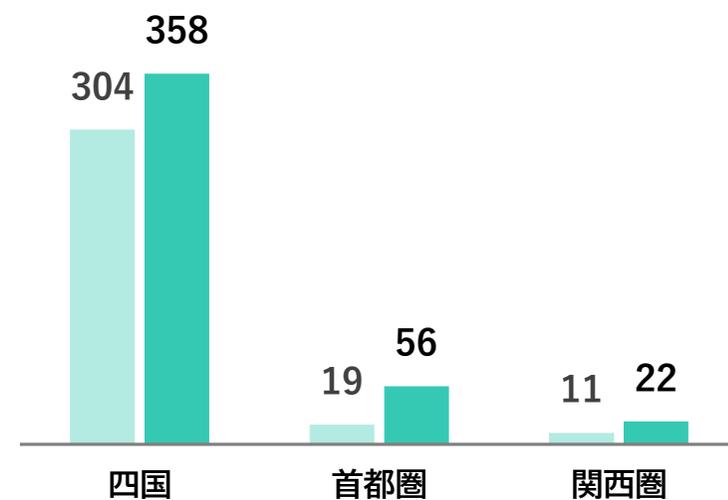
工事種類別売上高

■ 2023年度 中間 ■ 2024年度 中間



地域別売上高

■ 2023年度 中間 ■ 2024年度 中間 (億円)



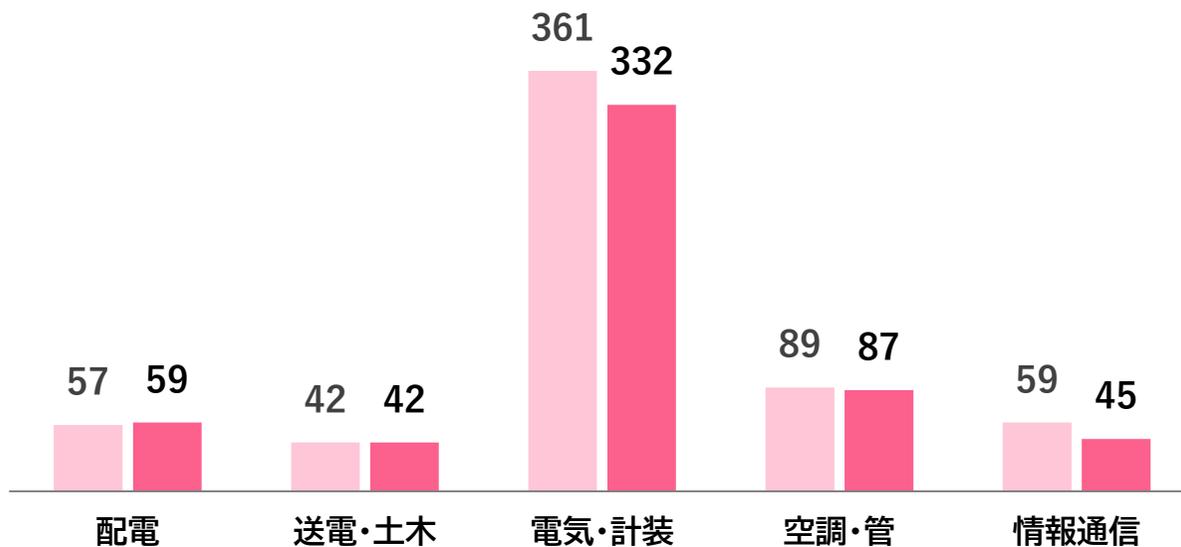
繰越工事高は、566億円であり、前年同期比▲44億円減。

▶前年同期に複数の大型物件を受注した反動減と堅調な工事進捗によるが、高い水準を維持

(億円)	2023年 9月末	2024年 9月末	前年同期比
繰越工事高	611	566	▲44

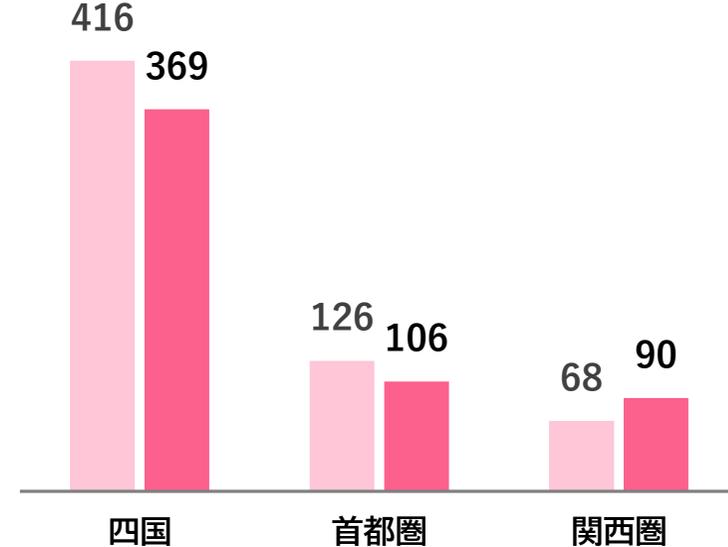
工事種類別繰越工事高

■ 2023/9末 ■ 2024/9末



地域別繰越工事高

(億円) ■ 2023/9末 ■ 2024/9末



	(億円)	2024年3月末	2024年9月末	増減	主な増減要因
流動資産		581	474	▲107	関係会社預け金 ▲103 現金預金 ▲24
固定資産		450	443	▲6	
資産合計		1,032	918	▲113	
流動負債		314	193	▲120	未払金 ▲48 支払手形・工事未払金等 ▲44
固定負債		99	96	▲3	
負債合計		414	289	▲124	
純資産合計※		617	629	+11	中間純利益 +27 配当 ▲12
負債純資産合計		1,032	918	▲113	
自己資本比率		59.8%	68.4%	+8.6	

※ 純資産は、「非支配株主持分」を含む。

主な完成物件

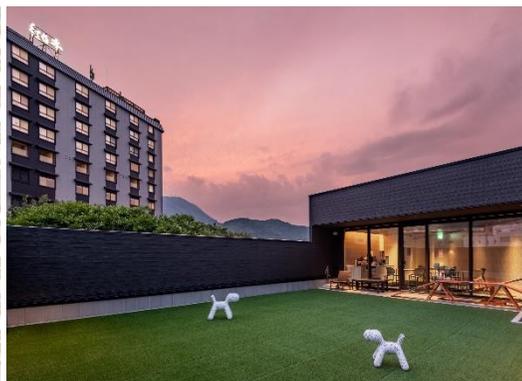
工事件名	建物用途等	工事種別	地域
済生会西条病院本館改築及び既存改修工事	総合病院	電気、空調・管	愛媛
赤坂グリーンクロス新築工事	再開発ビル	電気	東京
アキュラホーム本社屋新築工事	オフィスビル	空調・管	埼玉
琴平グランドホテル パットホテル増築及び紅梅亭改修工事	ホテル	電気、空調・管	香川
阿波銀行鴨島センター 太陽光設備設置工事	再エネ	電気	徳島
坂出バイオマス線新設 管路工事	再エネ連系	送電・土木	香川



赤坂グリーンクロス



アキュラホーム本社屋



琴平グランドホテル 紅梅亭別邸とら梅



坂出バイオマス線管路

I 2024年度第2四半期(中間期)実績

II 2024年度業績予想修正

III 配当予想修正(増配)

IV トピックス

- 通期の連結業績予想を、売上・各利益ともに上方修正。
中間期までの堅調な工事進捗ならびに手持ち工事の現況等を勘案。

(億円)	連結					
	2024年度予想		増減額	増減率	2023年度実績	前年度比
	4月26日公表	今回修正				
売上高	1000	1,050	50	5.0%	921	114.0%
営業利益	60	70	10	16.7%	64	108.6%
経常利益	65	75	10	15.4%	70	107.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	40	46	6	15.0%	45	100.6%
1株当たり※ 当期純利益	84.66円	97.35円	12.69円	—	96.71円	—

※ 2024年10月1日付で、普通株式1株を3株とする株式分割を行っております。1株当たり当期純利益は、2023年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、算定しております。

■ 通期の単体業績予想を、売上・各利益ともに上方修正。

(億円)	単体					
	2024年度予想		増減額	増減率	2023年度実績	前年度比
	4月26日公表	今回修正				
売上高	860	920	60	7.0%	772	119.2%
営業利益	43	56	13	30.2%	41	136.2%
経常利益	49	61	12	24.5%	49	122.2%
当期純利益	31	37	6	19.4%	35	105.6%
1株当たり※ 当期純利益	65.61円	78.31円	12.70円	—	74.13円	—

※ 2024年10月1日付で、普通株式1株を3株とする株式分割を行っております。1株当たり当期純利益は、2023年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、算定しております。

- I 2024年度第2四半期(中間期)実績
- II 2024年度業績予想修正
- III 配当予想修正(増配)**
- IV トピックス

配当予想の修正(増配)

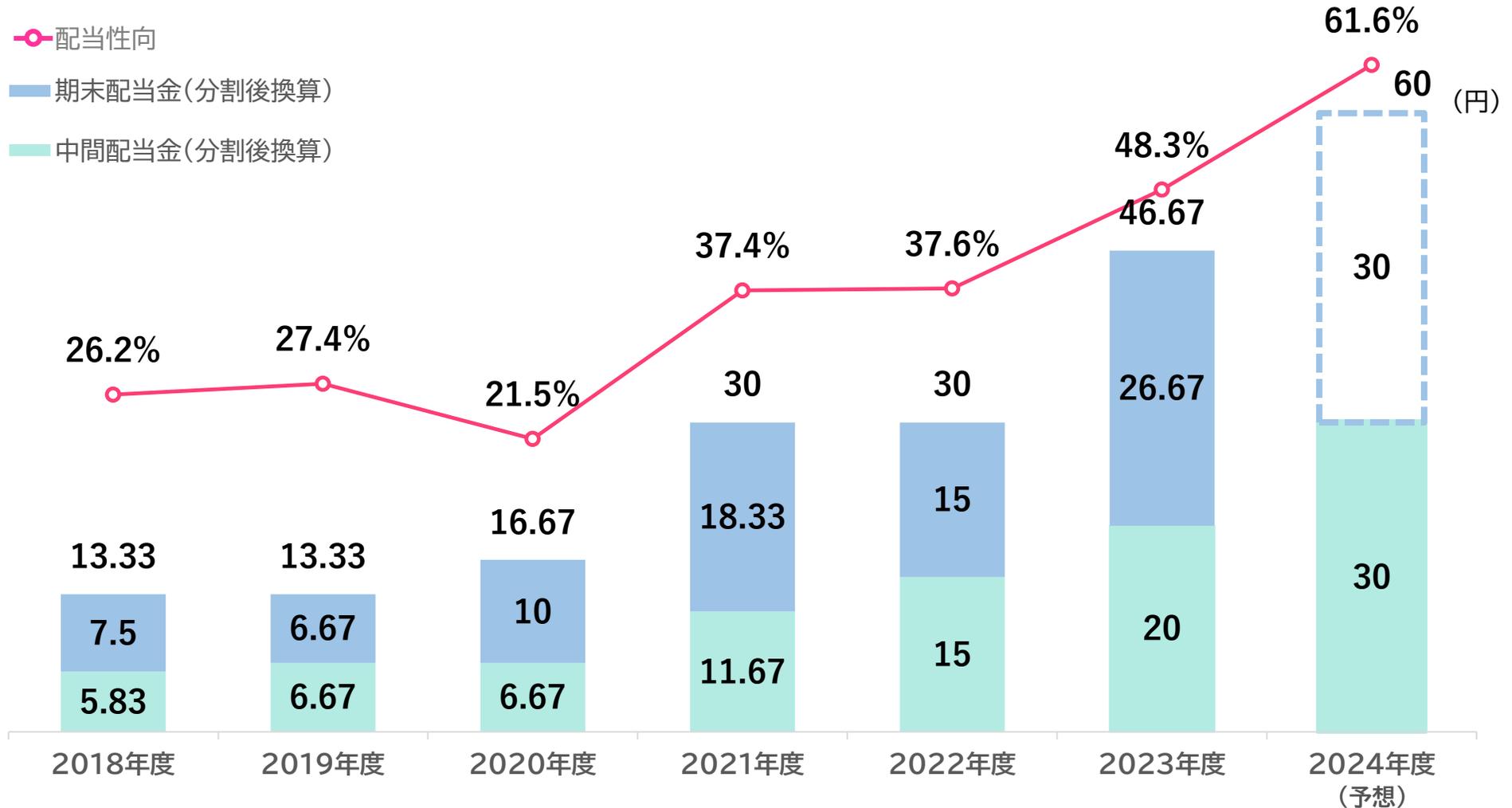
- 今回の当期業績予想の上方修正を踏まえ、中間配当金を直近の配当予想から増額とするとともに、期末配当金の予想についても修正(増配)。
- 分割前1株当たり年間配当金に換算すると、前期の140円から180円となり、40円の増配。(2024年10月1日付で普通株式1株を3株とする株式分割を行っております。)

	年間配当金		
	第2四半期末	期 末	合 計
前回予想(2024年7月31日) 【分割前換算】	75円00銭	25円00銭 【75円00銭】	— 【150円00銭】
今回修正予想 【分割前換算】	—	30円00銭 【90円00銭】	— 【180円00銭】
当期実績	90円00銭	—	—
前期実績(2023年度)	60円00銭	80円00銭	140円00銭

(注)(1)期末配当予想は、株式分割後の配当金の額を記載しております。年間の1株当たり配当予想については、株式分割の実施により単純計算ができないため表示しておりません。なお、参考として分割前換算の配当金の額を【 】内に記載しております。

(2)当第2四半期末および前期実績は、株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

配当金・配当性向の推移(分割後換算)



※ 2021年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を実施し、2024年10月1日付で普通株式1株につき3株の割合をもって株式分割を実施しているため、1株当たり配当金は2024年10月1日時点の株式数に換算した金額を記載しております。

I 2024年度第2四半期(中間期)実績

II 2024年度業績予想修正

III 配当予想修正(増配)

IV トピックス

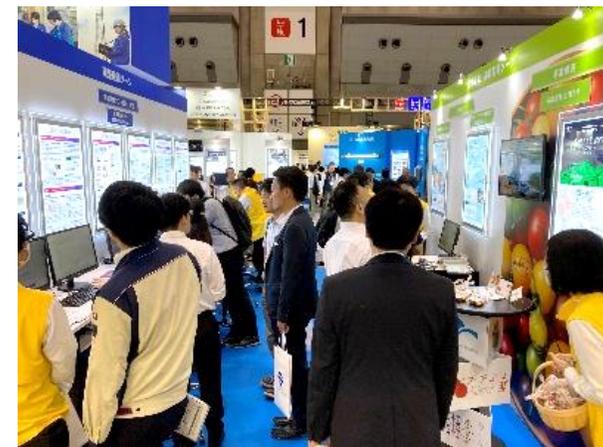
DX・研究開発



JECA FAIRに出展 最新技術を紹介

5月29日からの3日間、東京ビッグサイトで開催された電気設備業界最大級の総合展示会「JECA FAIR 2024 ～第72回電設工業展～」に出展しました。

当社のブースは、2つのゾーンで構成され、「建築設備ゾーン」では、最新のCADソフトや見積ソフトのPRを行い、「技術開発・事業開発ゾーン」では、太陽光パネル点検用の自立飛行ドローンやAIを活用した現場代理人工数予測システムなどについて、来場者に紹介しました。



大型ドローン「森飛(MORITO)25」本格運用

送電工事部門では2016年からドローンを導入し、ロープ延線・空撮・物品の運搬に使用してきました。2023年4月には最大25kgを運搬できる大型ドローン「森飛(MORITO)25」を配備し、二等無人航空機操縦技能証明の資格取得や操作訓練などの準備を経て、本格運用しています。送電工事部門の現場では、山が険しく背負子(しよいこ:左下写真)で資材等を背負い運搬(人肩運搬)せざるを得ないこともありますが、ドローンの活用により、運搬作業の負担は大幅に軽減してきており、さらなる大型化についても検討を進めています。



人的資本経営



技能顕彰「マスターラインマン」

一般社団法人 送電線建設技術研究会の2024年度本部表彰において、建設部 中央建設所の濱崎 大輔(写真 左)が技能顕彰者に選出され、全国でも約60名しかいない荣誉ある「マスターラインマン」の称号が授与されました。

これは「高所作業に関する卓越した技術・技能と見識を有し、他の模範となる者」に贈られる称号で、同氏が培ってきた技術力や後進の指導育成など、着実に積み上げてきた実績が評価されたものです。



社長による事業所訪問

会社およびその事業に対する共感を高め成長に向けた方向性を共有するため、経営幹部層の職場訪問など対話機会の拡充に取り組むこととしています。

その一環として、7月から3カ月間、関谷社長による事業所訪問を実施しました。計29箇所の事業所を訪問し、職場の課題や今年度から建設業にも適用された時間外上限規制の影響、生産性向上に向けた取り組みなどについて、意見を交わしました。



女性社員懇談会

人的資本の強化施策の一環として、女性の採用拡大や管理職比率の増加など、女性活躍の推進に向けた取り組みを強化することとしています。

昨年は「社外取締役と女性社員との懇談会」を開催し、これに続き、今年8月には「女性特別職懇談会」を開催しました。懇談会では、女性リーダーの育成やロールモデルとなるべき人材の登用のほか、現在抱えている諸課題等について活発な意見交換がなされるとともに、参加者にとって貴重な交流の場となりました。



社外取締役と女性社員との懇談会(昨年開催)



女性特別職懇談会



今日を支え 明日を創る

四電五

お問い合わせ先

株式会社四電工 企画部

E-mail: hnikaku@mail.yondenko.co.jp

本資料に記載されているデータや業績予想等、将来の見通しに関する記述については、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は種々の要因により異なる可能性があることをお含みおきください。